

I.漢字連結・熟語分解課題の学習目的

A:漢字連結課題

課題名「漢字をつなげて熟語を作ろう」

B:熟語分解課題

課題名「熟語を漢字に分けよう」

「漢字連結」と「熟語分解」は対になる課題で、内容も第1問～50問まで相補的な関係になっています。二つの課題を見比べながら解答することも可能です。

漢字連結課題では、訓読みの文から2つの漢字を取り出し、音読みで連結させて熟語を作ります。熟語分解課題は、反対に、熟語を構成する2つの漢字を訓読みにかえ、短い文を作ります。(※熟語はすべて、音読みで読まれる「漢語」を選んでいきます)

この両課題の学習目的は、熟語の意味の推察にあります。自分にとって未知の熟語であっても、構成する漢字の訓から語の意味を推測できるようになってほしいと思います。後半の問題には、転置して読まなければ意味が通らない熟語も(例:投球→球を投げる、無色→色が無い)まとめて提示しています。熟語の成り立ちや種類についての気づきを高める狙いがあります。

I-A 漢字連結課題の使い方

例を参考に、漢字の2つをつなげて熟語を作る問題です。

例を参考に、訓読みの2つの漢字をつなげて熟語を作る問題です。

例

漢字	訓読み	例
左	ひだり	左右
右	みぎ	
男	おとこ	男女
女	おんな	
前	まえ	前後
後	うし	
大	おお	大小
小	ちい	

① 男と女

② 前と後ろ

③ 大きいと小さい

で

左右

男女

前後

大小

できる熟語は漢語で統一されています。

連結してできた熟語を書き入れます

熟語にフリガナをつけます

熟語を音読みします

各問題は、「熟語分解課題」と対になっており、

例

漢字	訓読み	例
左	ひだり	左右
右	みぎ	
男	おとこ	男女
女	おんな	
前	まえ	前後
後	うし	
大	おお	大小
小	ちい	

① 男女

② 前後

③ 大小

それぞれを手本として、解答することもできます

I-B 熟語分解課題の使い方

例を参考に、熟語を漢字に分けようの使い方

例を参考に、熟語を訓読みの2つの漢字に分け、文を作る問題です。

例

漢字	訓読み	例
左	ひだり	左右
右	みぎ	
男	おとこ	男女
女	おんな	
前	まえ	前後
後	うし	
大	おお	大小
小	ちい	

① 男女

② 前後

③ 大小

は

左右

男女

前後

大小

熟語は、訓読み可能な漢字でできている語が選ばれています。

熟語を2つの漢字に分け、文を作ります。

漢字に、訓読みのフリガナをつけます

できた文を音読みします

各問題は、「漢字連結課題」と対になっており、

例

漢字	訓読み	例
左	ひだり	左右
右	みぎ	
男	おとこ	男女
女	おんな	
前	まえ	前後
後	うし	
大	おお	大小
小	ちい	

① 左右

② 男女

③ 前後

それぞれを手本として、解答することもできます

Ⅱ.熟語作成課題の学習目的

課題名「漢字のことばを作ろう」

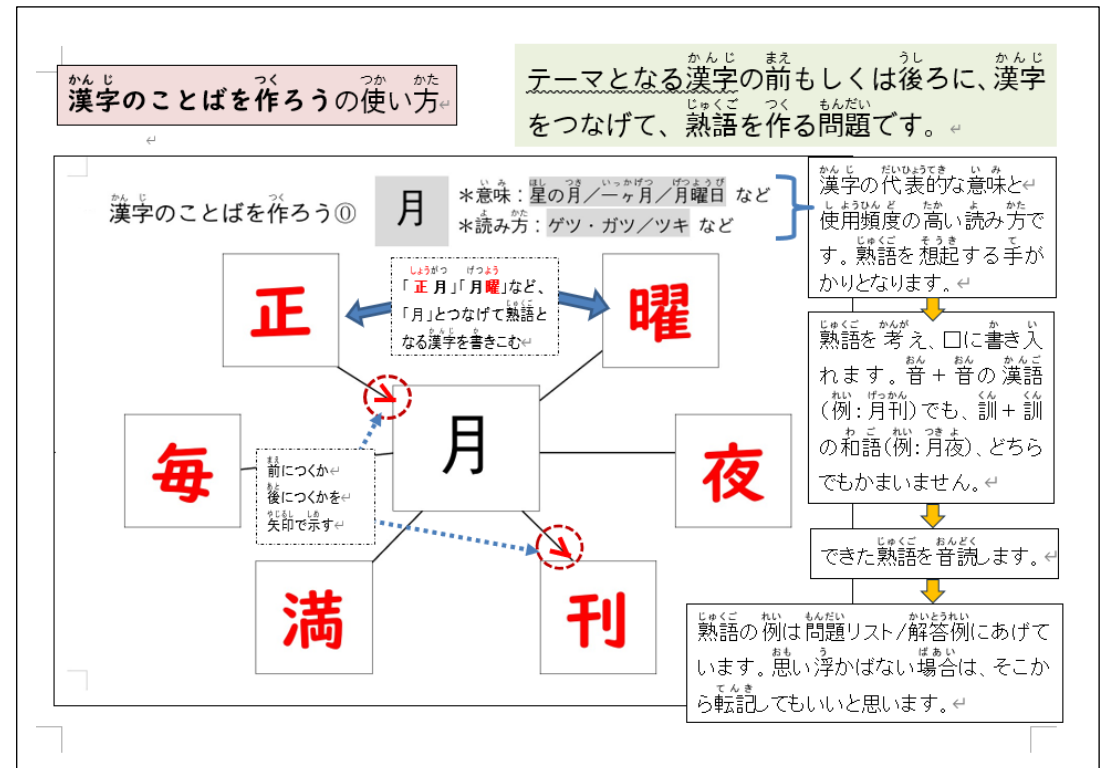
テーマとなる漢字の前後に漢字をつなげて熟語を作る課題です。

この課題の学習目的は、熟語の想起にあります。自分の持っている語彙の中から、特定の漢字とつながる熟語をどれだけ呼び起こすことができるか。解答のためにまず第一に求められるのは、漢字の読みですが、これについては、代表的な音・訓を問題で紹介しています。

とくに重要なのは漢字の音です。熟語は、訓+訓の和語（歯車など）より音+音の漢語（電車など）がはるかに多いので、漢字の音を知っていれば、さまざまな語が浮かびやすくなります。

また想起には、いくつかの方法があります。①その漢字が使われる状況を思い浮かべる。「作」だったら、（ええと、何を作るかな。作るもの…あ、作曲だ！） ②その漢字の前後に適当に漢字をくっつけてみる。その際、前につける場合は形容詞や位置を表わす漢字をつけると熟語になりやすい。（「作」だったら、多作、豊作、新作） ③前後をハミングにして唱え、アクセントやイントネーションから想起する。（ん本…あ、絵本がある。本ん…あ、本棚がある！） ④その漢字を書いてみる。 書字の運動記憶がつぎのことば（文字）を導く。 等々、さまざまな方法で言葉を手繰り寄せてほしいと思います。

Ⅱ.熟語作成課題の使い方



- Ⅲ 「熟語補充課題」 課題名「のなかに熟語を入れよう」
 Ⅳ 「熟語想起課題」 課題名「のなかに入る熟語を考えよう」
 Ⅴ 「文作成課題」 課題名「下の熟語を使って文を作ろう」

以上 3 課題の学習目的

Ⅲ～Ⅴの 3 課題は、各問題共通の 4 つの熟語が使われており、ⅣとⅤは、Ⅲの問題文を参考に解答を考えることができます。

まず課題Ⅲは、文に合った熟語を選択する課題です。選択肢の 4 つの熟語は日常的によく使われることばで、ある程度の語彙力があれば解答は容易かもしれません。つぎの課題Ⅳは、文に合う熟語を想起する課題です。Ⅲで選んだ熟語以外のものでも意味が通れば OK です。「ほかにもなにかあるかな？」と探してみてもらえればと思います。類義語・対義語の発見にもつながります。(Ⅳ.熟語想起課題の解答リストには、文が成り立つ熟語を 2 つずつあげています)

課題Ⅴは、熟語を使って文を作る課題です。自由解答なので熟語の使い方に間違いがなければ、どんな文でもかまいません。

これら 3 課題の学習目的は、文＝具体的状況の中での熟語の使用です。ことばは、さまざまな関係性の中で、さまざまな語と結びつきあって使われるものです。文の中に熟語を配置する学習が、日常会話や作文での使用のきっかけになってくれればと思います。

Ⅲ.熟語補充課題の使い方

「のなかに熟語を入れよう」の使い方

①文の中のに当てはまる熟語を、下から選んで書き入れます。

のなかに、熟語を入れよう 1

夏休みの工作が、**完成**した。

雨で運動会が**中止**になった。

電車が、駅に**到着**した。

こわれたテレビを**完成**した。

①	②	③	④
到着	完成	修理	中止

②熟語を書き入れたら、文を音読します。

IV. 熟語想起課題の使い方

「のなかに入る熟語を考えよう」の使い方

①文の中のに入る熟語を考えて、書き入れます。
文の意味が成り立てば、どんな熟語でも正解です

□のなかに入る熟語を考えよう 1

夏休みの工作が、**完成**した。

決定・失敗などでも OK です

雨で運動会が**中止**になった。

延期・短縮などでも OK です

電車が、駅に**到着**した。

停車・進入などでも OK です

こわれたテレビを**修理**した。

交換・廃棄などでも OK です

選択肢ありの熟語補充問題と、各問は共通しています。まず選択問題を行い、それから想起問題に取り組むと、解答が得やすくなります。

②熟語を書き入れたら、
文を音読します

□のなかに入る熟語を考えよう 1

夏休みの工作が、した。
雨で運動会がになった。
電車が、駅にした。
こわれたテレビをした。

到着 完成 修理 中止

V. 文作成課題の使い方

「下の熟語を使って文を作ろう」の使い方

①下の4つの熟語から1つを選び、その語を使って、
文を作ります

下の熟語をつかって、文を作ろう①

電車が駅に到着した。

各問題の4つの熟語は、
熟語補充問題・熟語想起
問題と共通しています。
補充・想起問題を参考とし
ながら、文を考えることも
できます。

到着 完成 修理

②文ができたら音読します

□のなかに入る熟語を考えよう 1

夏休みの工作が、した。
雨で運動会がになった。
電車が、駅にした。
こわれたテレビをした。

到着 完成 修理 中止

□のなかに入る熟語を考えよう 1

夏休みの工作が、した。
雨で運動会がになった。
電車が、駅にした。
こわれたテレビをした。

VI. 「語義推測課題」の学習目的

課題名「ことばの意味を考えよう」

文の内容から熟語の意味（語義）を推測し、3つの説明から1つを選ぶ課題です。この課題の学習目的は、文から語の意味を推測しようとする態度を育てることにあります。漢字の学びは、まず、中心的な意味（「大」→大きいこと）の理解から始まります。しかし漢字の多くは多義であり、最初に知った意味だけでは誤った理解になってしまう（※課題1のような、漢字の訓からの推測だけでは成り立たない）場面が出てきます。たとえば「大量のごみが落ちていた」は、たくさんのゴミを表わしていて、大きなゴミではありません。「大」には形や規模が大きい、という意味と、数や量が多い、という意味があります。そのほかにも、すぐれた、だいたい、などの意味もあります。このようなとき、漢字の第二義、第三義を推測させるのが、文です。その熟語が含まれている文やその文の前後の文章を読むことで、熟語の意味が推測されたり、漢字の持つ別の意味にも気づくことができます。

ことばと文字を豊かにしていくために、読解という行為は大きな役割を果たしています。

この課題のもうひとつの学習目的は、「用例」に触れる点にあります。用例は、国語辞典などで単語ごとに挙げられている例文のことです。定義による説明を補って、ことばの実際的な使い方を示します。↪

【**歓声**】よろこんでさけぶ声 **例**見物客の中から歓声がわきおこった。

※学研「レインボー国語辞典」より

用例は、それぞれのことばの典型的な使用例です。用例を読むことは、ことばの中心的・代表的な意味や使い方を知る上でとても大切です。

たとえば「歓声」という熟語は、文の中でどのような単語と結びつきやすいか。辞書では「よろこんでさけぶ声」と説明されていますが、ひとりで喜んでいるときよりも、みんなで喜びを分かち合っているときの方が、しっくりくるように思います。スポーツで勝った、人気絶頂のアイドルが舞台に登場した、そんな場面が思い浮かびます。行為の主体となるのは「観客」「群衆」など、大勢の人々で、（歓声が）上がる・湧きおこる、などの動詞（連語）が高揚した気分を表現します。さらに、「あちこちから」「いっせいに」などの副詞が加われば、広い空間のイメージも喚起されます。用例は、このようなことばの持つコア（本質）を、できるだけ簡潔に伝えるように工夫された文なのです。「語義推測課題」の問題文も、それぞれの熟語の用例となり得るように作成しました。問題文に触れることを通して、ことばの特徴やニュアンスに気づいてほしいと思います。

VI. 語義選択課題の使い方

ことばの意味を考えようの使い方

文の内容から、下線が引かれた熟語の意味
[語義]を推測する問題です。

ことばの意味を考えよう 1

● 下に線が引かれていることばの意味を、①～③の中から選んでください。

◇ ちょっと、暑すぎるから、エアコンの温度を、調節した。

- ① 安く買う ② ちょうどよくする ③ あたたかくする

◇ どんな方法がいいかについては、あとで、みんなと検討して

- ① 敵と戦う ② テストを受ける ③ よく考える

◇ 落とさないように、慎重に、はこんでください。

- ① 気をつける ② 背の高さ ③ とても重い

① ② ③の意味の中から
正しいものを選び、
○をつけます。

ヒントとして

三つの意味を、熟語の部分に入れて読んでみると、正しい答えが推測できます。

◇ ちょっと暑すぎるから、

① エアコンの温度を安く買った。

② エアコンの温度をちょうどよくした。

③ エアコンの温度をあたたかくした。

意味が合うのは、②！

VII. 「接頭辞連結課題」の学習目的

課題名「前につく漢字をえらぼう」

接頭辞（接頭語）とは、ことばの前につけて、つづくことばの意味を強調したり、調子を整えたり、意味を添えたりすることばです。この課題では、おもに意味の添加として働く接頭辞をテーマとしています。

「新」（新しい）、「最」（もっとも、いちばん）などの語です。

課題では、接頭辞＋熟語が成立するペアを選びます。問題中の5つの接頭辞と5つの熟語は、正答以外の組み合わせでは、耳慣れないことばとなってしまいます。（※新＋研究で、新研究ということばを使う場面も考えられますが一般的な使い方とは言えません）

この課題の学習目的は、接頭辞の漢字の意味から、ことばの意味を推測することにあります。はじめて目にする単語であっても、「長距離」という語を、長い距離のことだな、と意味を推し量ることができるようになってほしいと思います。また「チョーキョリ」と音で聞く場合もアクセントなどから、チョー＋キョリ、チョーは「長」と推測できればと思います。そのためには、漢字の音読みの知識とともに、接頭辞＋熟語形への気づきが必要です。たくさんの接頭辞＋熟語を蓄えることが、目から、耳から、ことばを増やしていくことにつながります。

VII. 接頭辞連結課題の使い方

前につく漢字を選ぼうの使い方

①左の1文字漢字（接頭辞）と右の4つの熟語を線で結び、よく使われることばを作ります。

《接頭辞とは》
単語の前につけて、
何らかの意味を付
加えるもの。

前につく漢字をえらぼう 1

しん 新	・	ちゅう い 注意
さい 再	・	はっ たつ 発達
ふ 不	・	はっ ばい 発売
み 未	・	かん しん 関心
む 無	・	ほう そう 放送

②ことばができたなら、「新発売は、新しく発売されること」のように、意味を考えます。

VIII. 「対義語選択課題」の学習目的

課題名「反対ことばをつなげよう」

対義になる熟語のペアを選ぶ課題です。対義語は、意味が正反対になる反対語（一方を否定すれば必ずもう一方になる関係：生⇔死、健康⇔病気など）と、意味が相対していて一対になる対応語（白⇔黒、兄弟⇔姉妹など）などに分けられます。また今回の課題では、無／未／不などの接頭辞がついて対義となる3文字熟語もとり上げています。

対義語学習の意義は、それまで漠然と感じていた言葉の関係性を、意識化・知識化する点にあると思います。たとえば成功と失敗。この2つの熟語を日常生活で使えているからといって、成功の反対は？ という問いに答えられるとは限りません。現実の状況から離れて言葉をイメージし、その対比的状況を想起・言語化する力が必要です。

対義語の学習は、イメージ力・思考力を育てる大切な課題だと思います。また対義語は、大きい⇔小さい、上⇔下など単一のことばから始まり、拡大⇔縮小、幸福⇔不幸など意味的に複雑な熟語へと進んでいきます。社会的知識や文脈の把握、心理的状況の洞察など、対義熟語の理解にはさまざまな能力が求められますが、対比を通してそれぞれの語の理解が深まることも期待されます。

VIII. 対義語選択課題の使い方

反対ことばをつなげようの使い方

Q左右の熟語から、対義語となるペアを選んで、線で結びます。

〈対義語とは〉

意味が正反対(例:安全⇔危険)もしくは対照的な関係(例:原因⇔結果)にあることば。

反対ことばをつなげよう 1

出発

失敗

成功

不潔

清潔

平日

安心

到着

休日

不安

※出発→到着、など意味が対照関係のペアも含まれていますが、わかりやすくするために「反対のことば」というタイトルでまとめています。